

令和5年度学校評価計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢向陽高等学校

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び次年度の扱い（改善策等）
1 基本的な生活習慣を確立させるとともに一人一人の生徒がタブレット端末を活用する個別学習や協働学習を通して、思考力・判断力・表現力を身につける授業を実践することで、生徒の学習意欲を喚起し、進路実現につなげていく。	① 遅刻の防止 全職員による登校指導や頻回者への指導を通して意識改革を図り、基本的な生活習慣を確立する。 生徒	遅刻者が1日に A 3人未満 B 4人未満 C 5人未満 D 5人以上  昨年度 3.9人	1. 7人	登校指導における声掛けや頻回者への意識改革を促す指導を行ったことにより、昨年度より大きく減少した。今後も生徒の健康意識を高め、基本的習慣を確立させると共に、保護者にも協力をお願いしていく。
	② 決められたルール（校則等）をしっかりと守る。 生徒	私は（生徒は）校則等のルールをしっかりと守っている。 A よくあてはまる B ほぼあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない  昨年度 A+B 94%	88%	校則の見直しを図りながら、学年団を中心として指導してきたがA+Bが10ポイントダウンした。今後は更にきめ細かい指導を教職員全体で取り組むことを徹底して行い、保護者の理解の下しっかりと対応していく必要がある。
	③ 個人面談を充実させ、生徒の様子を観察し、いじめ等の問題に相談室、学年、生徒課を中心に全職員で連携しながら迅速に対応する。 教員	各課、学年が連携をとりいじめ等の問題を抱えた生徒の早期把握と対策がとれている。 A よくあてはまる B ほぼあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない  昨年度 C+D 6%	0%	いじめの早期把握のため、日頃より生徒の様子を観察し早期に声かけや話しを聞いたりしたことがC・Dの回答が0になるという結果につながった。また、相談が寄せられた時に速やかに学年集会で全体指導を実施したことも結果につながった。今後は、生徒・保護者にもアンケートを取り、いじめ等のない学校づくりに努めていく。
	④ 一人一台タブレット端末を効果的に活用する等、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する。 生徒	授業を理解できるとする生徒が A 85%以上 B 75%以上 C 65%以上 D 65%未満  昨年度 81%	77%	工事の本格化による騒音などで授業に集中しづらい環境だった。昨年度に比べ理解度は下がったが、端末活用等の研修を実施し活用を促していったことによる一定の効果はみられている。今後も生徒の理解の深化につながるよう積極的に活用していく。
	⑤ 総合的な探究の時間やホームルーム活動、学校行事、日々の授業を通して、キャリア教育を推進する。 生徒	キャリア教育に関係する行事についてのアンケートで、肯定的な結果が A 85%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満  昨年度 84%	82.6%	3年間を見通したキャリア教育の実践には、一定の効果が見られる。今回の結果は外部講師の効果的な活用、特に本校卒業生の地域貢献への思いなどを聞いたことが自信につながった、今後も生徒のニーズにあった情報を提供し、将来の自分を想像できるよう粘り強く取り組んでいく。

	⑥ 生徒	3年生の進路実現に向けて、個々に応じた指導を実践し、進路実現を図る。	第1志望校への進学、就職内定が実現した生徒が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満  昨年度（進学） 93% （就職） 100%	（進学） 96% （就職） 100%	進学において、一般選抜で合格できる学力を身に付けるため、次年度からはA Iドリルを導入し一人一人に合った学習レベルからの基礎力向上を目指す。 就職においては、いかに適材適所に生徒を就職させるかが課題である。その為にインターシップや企業訪問・求人票から情報を収集して会社概要等の理解を深め、就業に向けての気持ちを高めることを今後も丁寧に続けていく。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・校則等のルール遵守について、ルールを守るという評価項目の数値が低くなっているが、何を守れなかったのかが具体的にわかる聞き方を工夫すると良いのではないか。</li> <li>・進路実現について、講演会などの講師として地域（町内）にはキャリアを積んだ様々な職種の方がいるので、上手く活用し協力してもらえば良いのではないか。</li> </ul>			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針		<ul style="list-style-type: none"> <li>・守れないと感じたルールについて、具体的内容が見とれるようにアンケート内容を改善する。</li> <li>・進路実現を図るうえでの講師については、進路指導課・学年と相談し卒業生や地域の方々など様々な話しに触れられるよう検討する。</li> </ul>			

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び次年度の扱い（改善策等）
2	特別支援学校の生徒との交流やボランティア活動などを通して、年齢や性別、国籍や障害の有無などに関係なく全ての人と助け合い支え合う共生社会を創り上げていく人材の育成に努める。	<p>① 特別支援学校の生徒との交流を通して、共生社会の実現に向け思いやりの心を育む。</p> <p>特別支援学校生徒との交流を通して生徒は A 積極的にかかわり満足している B おおむね満足している C 満足度が低い D 満足度がとても低い  昨年度 A+B 90%</p> <p>② 地域の方に喜んでもらえる行事やボランティア活動の機会を増やし、地域との交流に積極的に取り組んでいく。</p> <p>地域の方に喜んでもらえる行事やボランティア活動などに A 複数回参加し、積極的に取り組んだ B 回数は少ないが、一生懸命に取り組んだ C 参加する機会がなかった D 参加したいと思わなかった  昨年度 A+B 23%</p>	81.6%	<p>今年度、共同学習を行った生徒は全体の71%にあたる。共同学習の満足度について、A+Bは81.6%と昨年より8.4ポイントダウンしたが、これは、交流の回数をもっと増やしてほしいとの要望や、共同学習で積極的に話すことができなかったとの前向きな思いからと推察され、次年度は、教科の拡大や深化を考慮しており、交流ワークにもトライする予定である。</p> <p>今年度のボランティア清掃は、町内会長に提案して自らが事前に清掃エリア確認し、了解を得るかたちで実施した。作業をしていく中で、人員不足のためエリア全部を十分にきれいにできず終わったことがA+Bのポイント減の原因と考えられる。今後は、毎年恒例の清掃活動はもちろん、県や市主催事業にも積極的に取り組んでいきたい。</p>
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブ教育により福祉等に興味関心を持ち、その道に進む生徒が今後増えると予想されるため、授業・部活動・ボランティア活動の受け皿を考えてもらいたい。</li> <li>・清掃活動は悪くはないが、高齢化が進んでいる町内会と若い高校生が交流することで町や学校の活性化を図りたい。</li> </ul>		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針		<ul style="list-style-type: none"> <li>・インクルーシブ活動における内容に柔軟性を持たせ改善できるよう努める。</li> <li>・地域との交流やボランティア活動の内容がより喜んでもらえるように改善していく。</li> </ul>		

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び次年度の扱い（改善策等）
3 部活動のさらなる活性化を推進し、技能の向上を図るとともに、心豊かな人間性と社会性を身につけた生徒を育成する。	① 生徒	<p>1・2年次生の部加入率が</p> <p>A 85%以上</p> <p>B 80%以上</p> <p>C 70%以上</p> <p>D 70%未満</p> <p style="text-align: right;">昨年度 76%</p>	82%	活動の制限が解け、様々なことに挑戦しようとする生徒が増したが、工事のため活動場所に制限があり一部の生徒においてはやる気が下がった様子も見られた。今後も工事が進む中、限られた活動場所で内容を工夫し特別活動を充実させていきたい。
	② 教員	<p>部活動の指導について</p> <p>A 積極的に支援し指導している</p> <p>B 概ね支援し指導している</p> <p>C あまり支援せず指導していない</p> <p>D 殆ど支援せず指導していない</p> <p style="text-align: right;">昨年度 A+B 84%</p>		
学校関係者評価委員会の評価	・ 新入生は全員加入とあるが、近年の家庭の事情によりアルバイトをしなくてはいけない生徒もいると思う。全員加入は大変ではないか。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 色々な事情により退部者はいるが、自己肯定感が低い本校生徒は部活動を通してコミュニケーション力や継続できる耐性を身につけて積極的になっているため、今後もできるだけ加入を薦めていきたい。</li> <li>・ アルバイトについては、家庭の状況も鑑みながら認めている。</li> </ul>			

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	分析及び次年度の扱い（改善策等）
4 生徒・保護者・地域の理解を得ながら、ポストコロナの学校行事や業務の進め方の見直しを図り組織的な業務に努めることで、教職員の多忙化改善に取り組む。	① 教員	<p>業務改善を意識し、効率化につながる提言を行い時間外勤務の縮減に努力している。</p> <p>A よくあてはまる</p> <p>B ほぼあてはまる</p> <p>C あまりあてはまらない</p> <p>D あてはまらない</p> <p style="text-align: right;">昨年度 A+B 79%</p>	71.5%	今年度は大幅な教員減に加えて新規事業も重なり、各教員の業務時間に影響が出てA+Bが減少したとみられる。各自がワークライフバランスを意識し、仕事の効率化を図るよう心掛けるほか、定時退校日にはスムーズに帰れる雰囲気をつくっていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	・ 多忙化改善のためにも地域との連携を図れると良い。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	・ 地域人材を活用できるよう連携をとりながら活動の見直しを図っていきたい。			